

平成17年度(第49回)
岩手県教育研究発表会発表資料

社会 / 地歴・公民

**小学校社会科における資料活用の力を高める
学習指導に関する研究**
- 単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」
の活用を取り入れて -

平成18年1月12日
長期研修生
所属校 北上市立鬼柳小学校
佐々木 修

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想	2
(1) 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本的な考え方	2
(2) 単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れることの意義	2
(3) ナビカードの活用を取り入れた学習指導の展開	3
(4) 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想図	4
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	4
(1) 実態調査のねらいと内容	4
(2) 実態調査の分析と考察	5
(3) 実態調査の結果から明らかになったことと手だての試案作成上の留意点	6
3 基本構想に基づく手だての試案の作成	7
(1) 手だての試案	7
(2) 検証計画	7
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	8
(1) 単元の指導計画	8
(2) 単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れた授業実践の概要	9
(3) 実践結果の分析と考察	12
5 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する研究のまとめ	15
(1) 成果	15
(2) 課題	16
研究のまとめと今後の課題	16
1 研究のまとめ	16
2 今後の課題	17

おわりに

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

小学校社会科の学習においては、社会的事象に対して、複数の観点から見たり、考えたりすることによって、社会的事象を広い視野からとらえることができる力を育てることが求められている。そのためには、社会的事象をとらえるための基となる資料から事実を読み取ったり、資料を参考に自分の考えをまとめたりするなど、資料活用の力を高める必要がある。

しかし、児童の実態を見ると、資料を活用する方法が十分に身に付いていないため、資料から問題を発見したり、資料から読み取ったことをまとめたりすることができない様子が見られる。また社会科の学習は、知識を習得するものという意識を児童の多くがもっている傾向が見られる。これらは、社会科の指導では、資料を活用する力を高めることが大事であると言われながらも、知識・理解を重視した指導が行われ、資料を活用して問題解決を図る指導や学び方を学ぶ指導が十分ではなかったためと思われる。

このような状況を改善するためには、単元を通じて学び方の視点を示すことによって、資料を正確に読み取ったり、資料を基に自分の考えをまとめたりする力を高めるように指導する必要がある。

そこで、この研究は、単元を通じて資料活用にかかわる学び方を学ぶ「ナビカード」を取り入れることによって、資料活用の力を高める学習指導について明らかにし、社会科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

小学校社会科の学習指導において、単元の指導過程に次のような学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れれば、資料活用の力を高めることができるであろう。

- ・つかむ段階...資料の読み取り方についての学び方を学ぶ「ナビカード」
- ・追究する段階...資料を基に自分の考えをまとめる方法についての学び方を学ぶ「ナビカード」
- ・まとめる段階...資料活用にかかわる学び方を振り返る「ナビカード」

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

(1) 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想（文献法）

小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導についての基本的な考え方をまとめ、資料活用の力を高める学習指導についての基本構想を立案する。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察（質問紙法）

社会科の学習に対する児童の経験や資料の読み取りについての実態を調査し、その分析と考察を行い、問題点と要因を把握し、手だての試案作成の配慮事項として役立てる。

(3) 基本構想に基づく手だての試案の作成（文献法）

基本構想と実態調査の結果に基づき、単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」を取り入れた手だての試案を作成する。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践、テスト法、質問紙法）

手だての試案に基づいて授業実践を行い、その分析をとおして、資料活用の力の育成状況を考察する。

(5) 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき、小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導につ

いてまとめる。

2 授業実践の対象

北上市立鬼柳小学校 第5学年 1学級（男子23名 女子16名 計39名）

研究結果の分析と考察

1 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想

(1) 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本的な考え方

ア 社会科における資料活用の力とは

社会科の学習においては、社会的事象に対して、複数の観点から見たり、考えたりすることによって、社会的事象を広い視野からとらえることができる力を育てることが求められている。そのためには、社会的事象をとらえるための基となる資料から事実を正しく読み取ることが必要となる。そして、読み取った事実から問題を発見したり、問題解決に必要な資料を収集・選択したり、複数の資料を比較・検討したりする活動をとおして問題に対する自分の考えをもつことが、問題を解決していく上で大切な力である。さらに、資料活用についてどれくらい力が身に付いたのか、児童個々が資料活用にかかわる学び方を振り返ることができる力が育成されることで、資料活用の力を高めていくことにつながるものとする。

以上のことをふまえ、本研究では、資料活用の力の構成要素を【表1】に示すようにとらえた。

【表1】資料活用の力の構成要素

構成要素	意 味
事実を読み取る力	統計資料や写真資料などの資料から、表されている事実を読み取る
資料を基に考える力	読み取った事実を基に問題に対する自分の考えをまとめる
学び方を振り返る力	資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ、整理する

このことから、本研究の目指す児童の姿を、「問題の解決に当たって、資料を正しく読み取り、資料を基に自分の考えをまとめたり、資料活用にかかわる学び方を振り返ったりすることができる児童」とする。

イ 小学校社会科における資料活用の力を高めることの意義

変化の激しい現代の社会においては、多くの資料から問題の解決に必要なものを収集・選択する力や資料を的確に分析して社会的事象について正しい判断ができる力の育成が求められている。このことから、資料活用の力を高めることは、社会的事象について正しい判断をするために必要なことであり、これからの社会を生きていく児童にとって意義のあることである。

(2) 単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れることの意義

ア 単元を通じて学び方を学ぶとは

社会科の学習においては、資料から問題を発見したり、資料を基に考えをまとめたりするなど、学習内容によって資料活用にかかわる学び方の内容も変わってくる。したがって、単元の学習指導において、つかむ段階、追究する段階、まとめる段階に応じて、資料活用にかかわる学び方を学ぶ場面を設定する必要がある。そこで、それぞれの段階において次頁に示すような学ぶ場面を設定して、単元を通じて資料活用にかかわる学び方を学ぶことができるようにする。

つかむ段階...資料を読み取る場面、問題を発見する場面

追究する段階...資料の収集・選択、比較・検討の場面、自分の考えをまとめる場面

まとめる段階...資料を活用して問題解決をするための学び方を振り返る場面

イ ナビカードとは

ナビカードとは、資料の読み取り方や資料を基に考えをまとめる方法等、資料活用にかかわる学び方を整理しながら、単元を通じて資料活用の力を高める学習カードのことである。ナビカードには、次のような働きをもたせることにする。

- ・資料の読み取り方についての学び方を学ぶことができる
- ・資料を基に自分の考えをまとめる方法についての学び方を学ぶことができる
- ・資料活用にかかわる学び方を振り返る視点について学ぶことができる

(3) ナビカードの活用を取り入れた学習指導の展開

本研究では、単元を通じて資料活用にかかわる学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れた学習指導を次のように展開していく。

ア つかむ段階

この段階では、児童が社会的事象をつかみ、問題を発見できるようにすることが大切である。そのためには、児童個々が既にもっている知識と社会的事象との関連を図るとともに、各種の資料の見方や事実を読み取る方法を身に付けさせることができるようにする必要がある。

そこで、資料の読み取りの視点を示し、書き込み式でまとめたり、簡単なグラフを作成したりできるようなナビカード(ナビカード)を用いる。

作業的な活動を取り入れた学習活動を展開することにより、資料を読む際のポイントとなる事項を体験的に理解することができ、資料を正しく読み取る力を高めることができる。

イ 追究する段階

この段階では、つかむ段階で設定した学習問題を解決するために、資料を収集したり、資料を比較・検討したりしながら、自分の考えをまとめることができるようにすることが大切である。そのためには、問題発見の方法や資料収集の方法、さらには収集した資料を基に自分の考えをまとめる方法を身に付けさせる必要がある。

そこで、資料の収集の方法や図書資料を使つての調べ方、収集した資料の比較・検討の方法を記述しながら理解が図れるようなナビカード(ナビカード)を用いる。

また、どんな調べ方をしたのか、どのように資料を分析したのかなど、児童個々の学びを他の児童と交流し、互いの考えを学びながら資料を基に自分の考えをまとめる方法について理解できるようにする。小集団での活動を取り入れた学習活動を展開し、自分とは違う見方や考え方を学ばせることにより、自分の考えを深めることができ、資料を基に考える力を高めることができる。

ウ まとめる段階

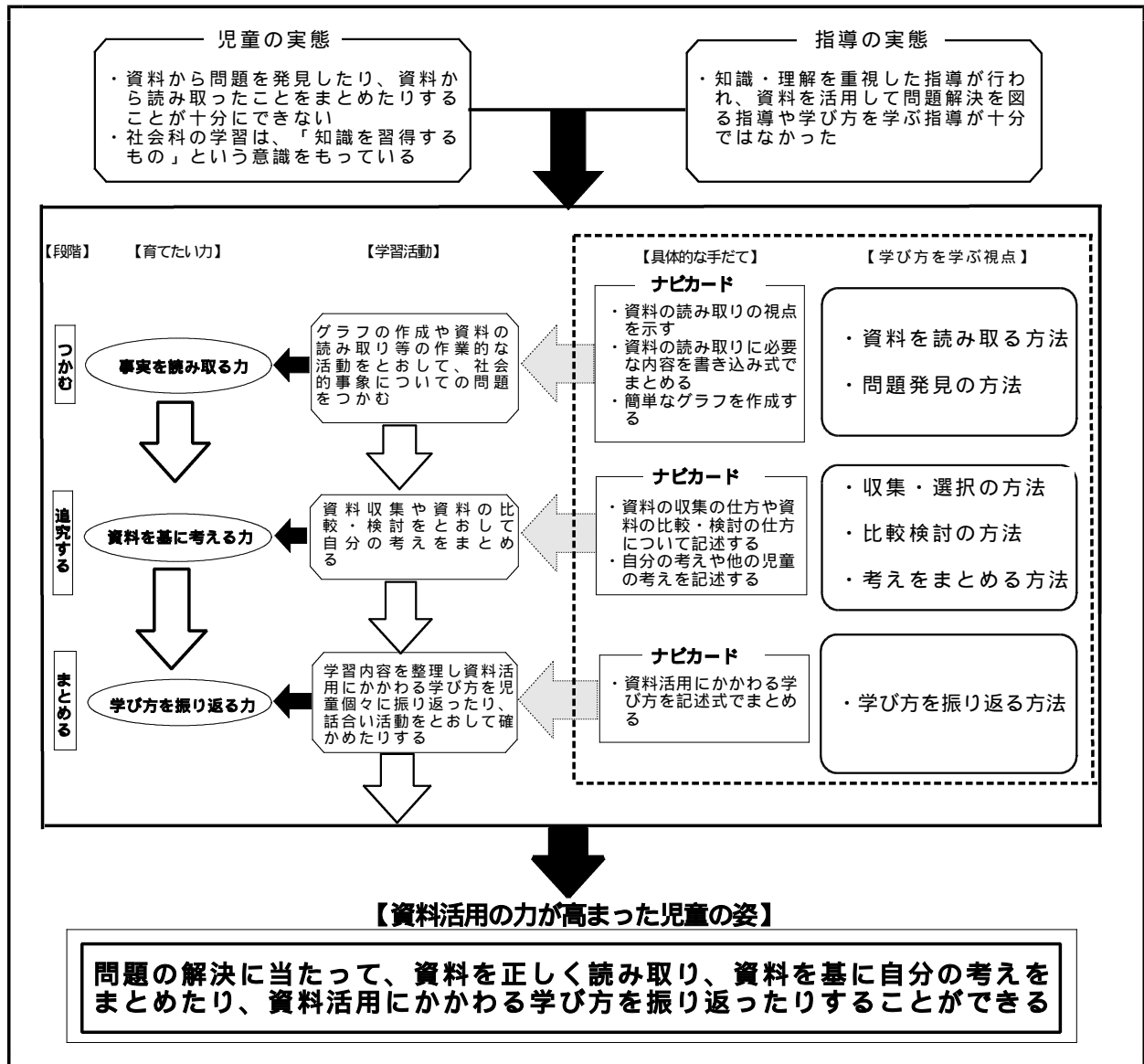
この段階では、学習内容を整理するとともに、資料活用にかかわる学び方を振り返り、単元の学習を通じて学んだ資料活用の方法を、次の学習に生かすことができるようにすることが大切である。

そこで、ナビカード(ナビカード)に資料の読み取り方や比較検討の方法、資料を基にした自分の考えのまとめ方など、資料活用にかかわる学び方について記述する項目を入れる。

また、小集団や全体での話し合い活動を取り入れた学習活動を展開することにより、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ、整理することができ、学び方を振り返る力を高めることができる。

(4) 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想図を【図1】に示す。



【図1】小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査のねらいと内容

ア ねらい

この調査の目的は、資料を活用した学習の進め方の実態を把握し、単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れた学習指導についての手だての試案作成に必要な資料を得ることである。

イ 調査の対象

北上市立鬼柳小学校第5学年 1学級（男子23名女子16名 計39名）

ウ 調査日時

平成17年7月20日(水)

エ 調査と処理の方法

【表2】学習者に対する実態調査内容

(ア) 研究者が先行研究や参考文献を基に作成した問題による調査を行う。

(イ) 自由記述による設問は、回答内容を分類し、分析・考察する。

観 点	設問	設問内容	手だての試案への生かし方
資料から事実を読み取る活動にかかわる実態	1	・グラフの縦軸、横軸は何を表しているか ・グラフのタイトルは何か ・表を基に折れ線グラフを書く ・増え方が一番大きいのはどこか	・資料の読み取りの実態を把握し、ナビカードの活用の仕方を指導する際の留意点の把握
自分の考えをまとめる活動にかかわる実態	2	・友だちの考えを聞くときに、自分の考えと比べながら聞いているか	・自分の考えをまとめさせるための観点を与える際の留意点の把握
	3	・学習のまとめ目を書くときに、自分の考えを書いているか	

オ 調査の内容

実態調査の観点及び設問の内容は、【表2】のとおりである。

(2) 実態調査の分析と考察

ア 資料から事実を読み取る活動にかかわる実態

(ア) グラフの縦軸、横軸をとらえる問題では、正解者が36名であった。誤答を見ると、「縦と横を間違えている」(1名)、「30、10という数字を書いている」(1名)、「温度、時間という言葉を書いている」(1名)であった。このことから、学級のほとんどの児童がグラフの縦軸と横軸をとらえることができるが、問題の意味がとらえられなかったり、自分の思いこみで記入したりしていると考えられる。

(イ) グラフのタイトルをとらえる問題では、正解者が34名であった。誤答を見ると、表題を正確に書くことができなかつたり(4名)、グラフの種類(折れ線グラフ)を書いていた(1名)していた。このことから、間違った児童は、正確にタイトルを読み取ることができなかつたり、「グラフのタイトル」という言葉の意味をとらえられなかつたりしていると考えられる。

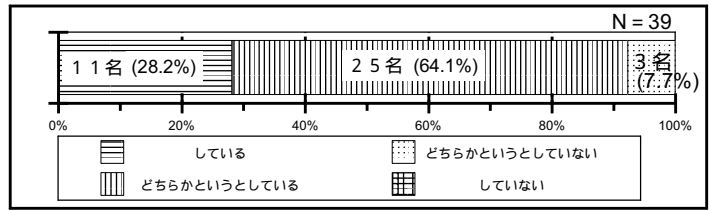
(ウ) 表を基に折れ線グラフを作成する問題では、正解者が36名であった。誤答を見ると、点と点を正確に結べなかつたり(1名)、棒グラフを書いて途中で気づいたのか、消してから折れ線グラフに表していた(2名)していた。このことから、間違った児童は、線を正確に引く技能が身に付いていなかつたり、グラフの名前とグラフの種類が一致しなかつたりしているものと考えられる。

(エ) 増え方が一番大きいところをとらえる問題では、正解者が26名であった。他の問題と比べると正解者が少ない。誤答を見ると、「増え方が一番大きい」という言葉の意味をとらえられずに、グラフの傾きだけを見て増えている部分を答えたり(7名)、一番高くなっているところを答えたり(4名)、逆に、減っている部分を答えたり(2名)していた。全体的な傾向をつかむことはできるが、グラフの部分的な変化に着目することが難しい児童が多いものと考えられる。

イ 自分の考えをまとめる活動にかかわる実態

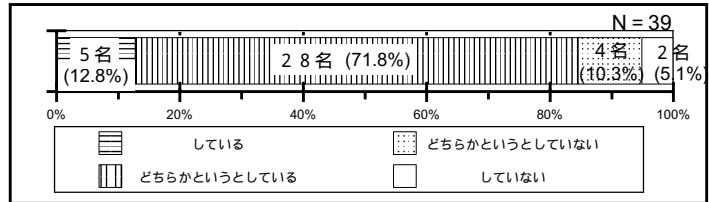
(ア) 次頁の【図2】は、友達の考えを聞くときに、自分の考えと比べながら聞いているかについての調査結果である。「どちらかというとしている」が、25名で一番多く、「している」の11名と合わせると36名になり、学級のほとんどの児童が、友達の考えを聞くときに、自分の考えと比べながら聞いていることが分かる。これに対して、「どちらかというしていない」が3名、「していない」と答えた児童はいなかった。理由が「社会科の学習は好きではなく、自分の意見と比べようとは思わない」、「自分の考えが変わるかもしれない」、「比べながら聞

くということに関係なく聞いている」であった。これらのことから、社会科の学習においては、自分の考えに自信がもてなかったり、自分の考えと比べながら聞くことの大切さを感じていなかったりしている児童がいるものと考えられる。



【図2】 友達の考えを聞くときに、自分の考えと比べながら聞いている

(1) 【図3】は、学習のまとめを書くときに、自分の考えを書いているかについての調査結果である。「どちらかというとしている」が28名で一番多く、「している」の5名と合わせると、33名となり、学級の8割以上の児童が学



【図3】 学習のまとめを書くときに、自分の考えを書いている

習のまとめを書くときには、自分の考えを入れながら書いていることが分かる。これに対して、「どちらかというとしていない」が4名、「していない」が2名で、理由が「自分の考えが思いつかない」(2名)、「まとめを自分で考えるのが面倒くさい」、「友達や先生が書いたまとめを書いているから」、「書く前に考え方が変わるから」、「間違っことを覚えるとだめだから」であった。これらのことから、自分の考えをどうまとめてよいか分からなかったり、自分の考えを書くことへの抵抗感をもっていたり、自分の考えを書くことよりも板書されたことを書き写すことを行っていたりしている児童が見られるものと考えられる。

(3) 実態調査の結果から明らかになったことと手だての試案作成上の留意点

実態調査から明らかになったことと手だての試案作成上の留意点を【表3】に示す。

【表3】 実態調査から明らかになったことと手だての試案作成上の留意点

明らかになったこと	手だての試案作成上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りについては、縦軸や横軸、タイトルをとらえることはできるが、「一番大きく増えている」という、ある部分に着目してグラフを読み取る技能が身に付いていない児童が学級全体の約3分の1いること ・自分の考えと比べながら聞いている児童が9割以上いる反面、社会科の学習に意欲的でなかったり、自分の考えに自信がもてなかったり、自分の考えと比べて聞くことの大切さを感じていなかったりしている児童がいること ・学習のまとめを書くときに自分の考えを書くことに対して、6名の児童が行っていなかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの変化の様子をとらえさせるために、全体的な傾向とともに大きく変化している部分に着目できるように、ナビカードに読み取りの視点として示す ・小集団やグループ、全体での話し合い活動を行うときには、友達の考えを記入できるようにナビカードを作成して、自分の考えと比べたり、取り入れたりしながら自分の考えをまとめさせるようにする ・自分の考えをまとめさせるときには、キーワードを示したり、書き出しの言葉を確認したりするなど、書くことへの抵抗感をなくすようにナビカードを作成すること

3 基本構想に基づく手だての試案の作成

(1) 手だての試案

実態調査から明らかになったことと手だての試案作成上の留意点に基づき、単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れた学習指導の手だての試案を【表4】に示す。

【表4】単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」を取り入れた学習指導の手だての試案

段階	単元の指導過程	指導の手だて (ナビカードの活用)	指導上の留意点 (は手だてにかかわる工夫及び留意点)
つ か む	1 社会的事象と出会う ・社会的事象の中心的事柄をつかむ	ナビカード ・学習の見通しをもつ ・資料の読み取り方を学び書き込み式でまとめる ・問題発見の方法を学ぶ	・単元をとおしてどのような学習の進め方をしていくのか、学習の見通しを示すようにする 資料の読み取り方について、全体的な傾向や大きく変化している部分に着目できるように、具体的に視点を示すようにする ・統計資料の読み取り方を理解させるために、既習のグラフを作成するなどの作業的な活動を取り入れるようにする ・疑問点や問題点の発見の仕方について、視点を示すようにする ・児童個々の問題を整理しながら単元をとおした学習問題を設定するようにする
	2 学習問題を設定する ・社会的事象から疑問点や問題点を明らかにする ・学習問題を決める		
	3 予想をたてる ・既習事項を活用して自分で予想を立てる 4 学習計画を立てる ・手順や方法を考える		
追 究 す る	5 検証する (1)収集・選択する (2)比較・検討する	ナビカード - 2 ・資料収集・選択の方法を学ぶ ・複数の資料の比べ方や関連のさせ方を学ぶ ・自分の考えとその根拠を明らかにする	・資料の収集・選択や比較・検討の方法についての視点を示すようにする ・提示した資料と収集した資料を比較させたり、関連に気付かせたりして考えを深めさせるようにする
	6 深める ・調べたことや自分の考えを発表する ・考えを交流し合う ・自分の考えを深める	ナビカード - 3 ・学習問題に対する自分の考えをもつ ・自分の考えと友達のことを比べながら、自分の考えをまとめる	・発表の仕方や交流の仕方についての視点を示すようにする ・問題に対する考えと資料活用にかかわる学び方についての考えの二つに分けて、自分の考えをもたせるようにする 自分の考えとともに参考となる友達の考えを記入させることをとおして、自分の考えを深められるようにする
ま と め る	7 追究した内容をまとめる ・全体を通して、自分の考えをまとめる ・資料活用にかかわる学び方についてまとめる	ナビカード ・単元をとおした学習問題について、自分の考えをまとめる ・資料活用にかかわる学び方を振り返る	自分の考えをまとめる際には、キーワードや書き出しの言葉を確認してから書かせるようにする ・資料活用にかかわる学び方を振り返らせるようにする ・資料活用にかかわる学び方の理解と定着を図るために、小集団や全体での話し合い活動を取り入れるようにする

(2) 検証計画

授業実践をとおして、手だての試案の妥当性を見るために、次のような検証計画を作成し、検証を進めることとする。

【表5】検証内容と方法及び処理・解釈の方法

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
資料活用力の育成状況	事実を読み取る力	・テスト法で事前事後に実施	・t検定により、結果を分析し考察する
	資料を基に考える力 学び方を振り返る力	・ナビカードやノートの記述	・判断するための観点に基づき、ナビカードへの記述内容について分析し考察する

【表5】は、検証内容と方法及び処理・解釈の方法を示したものである。また、次頁【表6】は、資料活用力の育成状況を判断するための観点を示したものである。

なお、ナビカードは【補充資料1】、事前事後に実施したテストは、【補充資料3】に示す。

【表6】資料活用の力の育成状況を判断するための観点

検証内容	判断するための観点及び記述例
事実を読み取る力	資料を見て、具体的な数値をとらえている グラフの変化の全体的な傾向をとらえている 変化の大きい部分をとらえている 複数のグラフを比べて相違点をとらえている 上記の四つの観点のうち「資料を見て、具体的な数値をとらえている」ことを含めて三つ以上とらえることができたときに、資料から表されている事実を読み取ることができたと判断する 記述例 ・日本の自動車の輸出台数の資料では、アメリカ合衆国国が一番多く184万台である ・自動車を選ぶときは、1学期の自動車生産の学習で船で運ぶことを勉強したことがある ・日本の自動車の国内生産は、1975～1980年の6年間に大きく増えている ・日本の生産額の変化を表した3つのグラフから、機械工業が一番多く60年前よりも約4倍増えている
資料を基に考える力	資料から読み取った事実を基に自分の考えを記述している 調べたことから新たな疑問を発見し、さらに調べたことを加えながら自分の考えをまとめている 友だちの考えを取り入れながら、自分の考えをまとめている 既習事項や別の資料を結びつけて自分の考えをまとめている 上記の四つの観点のうち「資料から読み取った事実を基に自分の考えを記述している」ことを含めて二つ以上とらえることができたときに、読み取った事実を基に問題に対する自分の考えをまとめることができた」と判断する 記述例 ・輸出入のグラフから、どちらも機械類が多くなっている。また、資源の輸入の割合のグラフから原料をほとんど輸入している。これらのことから、原料や部品が輸入できなくなったら日本の工業は成り立たなくなってしまうと考えた ・中小工場で働く人たちは一人当たりの生産額や働いている写真の資料から、苦労していることが多いと考えたが、くさんから、中小工場にしかできないことやアイデアを考えて働いていることを教えてもらい、大変なことだけではなく希望や情熱をもって働いている人々がたくさんいると考えた
学び方を振り返る力	資料を読み取る時の手順を正しくとらえている 予想の立て方を正しくとらえている 資料収集・選択、複数の資料を比較検討するときの方法を正しくとらえている 自分の考えをもつ方法を正しくとらえている 自分の考えをまとめる時の方法を正しくとらえている 上記の五つの観点のうち「資料を読み取る時の手順を正しくとらえている」ことを含めて四つ以上とらえることができたときに、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ、整理することができたと判断する 記述例 ・資料を読むときには、前に学習したことと関係がないか考えてみる ・グラフを読み取る時は、全体的に増えているのか、一番大きく変化しているところは、どこかを見る ・資料を集めるときには、何が知りたいのか、どんな資料が必要かをはっきりさせること ・複数の資料を比べるときには、変化の似ている点や違う点を見つけることが大切であること
「注」 は、資料活用の力の育成状況を判断するための観点を表し、 は、できたと判断するために最も必要な観点を表している	

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 単元の指導計画

手だての試案に基づいて、小単元1「世界とつながる自動車」と小単元2「工業の今と未来」の指導計画を【資料1】、【資料2】のように作成した。

【資料1】小単元1「世界とつながる自動車」の指導計画（6時間扱い）

段階	ねらい	時間	学習活動と内容	ナビカードの活用の仕方
つかむ	世界地図や地球儀を使って、日本からさまざまな国の距離・方位を調べることができる	1	・日本から見たアメリカ合衆国やその他の国々の方位や世界の主要都市までの距離を、地図や地球儀で調べる ・地図や地球儀の特徴をまとめる	1 資料の読み取り方についての学び方を学ぶナビカード ・単元の導入の場面で、基本的な資料の読み取りを指導(または確認)する際に、ナビカード や -2 を活用する。また、地図帳と地球儀の使い方を指導する際には、裏面に示した視点を基に、実際に、地名探しをしたり、郷里や方位を調べたりする活動を取り入れる ・学習問題を発見する場面では、ナビカード -2の裏面に示した視点を基に、児童が学習問題を発見できるようにする
	日本の自動車の輸出がどのように行われているか調べ、日本の貿易にかかわる問題点をつかむことができるようにする	1	・日本の自動車の輸出は、どのように行われているか ・日本の貿易にかかわる問題点は何か ・学習問題を設定する ・予想される学習問題 ・日本の自動車が外国で生産している理由は何か ・日本の貿易の特色をまとめよう	
追究	日本の貿易にかかわる学習問題について予想を基に調べ、自分の考えをまとめることができるようにする		・日本の自動車を外国で生産の様子を次の観点で調べたり、考えをまとめたりする(観点) 日本の自動車が外国で生産されているわけを調べる ・日本の自動車が、海外のどこでどのよう	2 資料を基に自分の考えをまとめる方法についての学び方を学ぶナビカード ・学習問題を追究する場面で、ナビカード -1及び -2 を活用して、予想の立て方や

する		2	<ul style="list-style-type: none"> に生産されているか調べる これからの自動車生産の進め方について考える 日本の輸出入品の特色を次の観点で調べたり、考えをまとめたりする (観点) 日本では、どんな物を輸出しているか、またその移り変わりについて調べる 日本の輸出入品の特色について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 資料収集の方法、資料の比較 検討の方法を単位時間の導入時に指導する 自分の考えをまとめる場面では、ナビカード - 3を活用して、自分の考えを発表原稿にまとめさせる。さらに、裏面を使って、友達の考えを参考にしながらまとめさせる
まとめる	日本の貿易に特色や問題をまとめることを通じて、これからの貿易の進め方について考えをもつことができるようにする	2	<ul style="list-style-type: none"> 輸出入品はどのように運ばれているのか調べる 日本の貿易の特色や問題点について考える これからの日本の貿易の進め方について考える 日本の自動車は外国で生産している理由は何か 資料活用にかかわる学び方をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 資料活用にかかわる学び方を振り返るナビカード 単元のまとめの後に、ナビカードを活用して、資料活用にかかわる学び方をチェック項目や記述に従って振り返らせる。指導者はカードを集計したり、記述内容を分析したりして、次単元の指導に活かす

【資料2】小単元2「工業の今と未来」の指導計画（5時間扱い）

段階	ねらい	時間	学習活動と内容	ナビカードの活用の仕方
つかむ	身の回りにおける工業製品を調べる活動を通じて、日本の工業の種類や特色について調べたいことをつかむことができるようにする	1	<ul style="list-style-type: none"> 工業製品の種類ごとに分ける。 日本でどんな種類の工業が盛んであるかを調べる 日本の工業の特色やこれからの工業について学習問題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 1 資料の読み取り方についての学び方を学ぶナビカード 前単元で活用したナビカードや - 2を活用して、資料の読み取り方を単元の導入時に確認する
追究する	日本の工業の盛んな地域をつかむとともに、土地の条件や交通網とのかかわりについて気付くことができるようにする 大工場や中小工場での生産の違いを調べることから、日本の工業の特色をつかむとともに、中小工場の抱える問題点や解決のための努力についてとらえることができるようにする 工業の発達によって、さまざまな工業製品が使われるようになり、人々の暮らしが大きく変わってきたことに気付くことができるようにする	3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の工業の盛んな地域を教科書や地図帳で調べる 工業地帯や工業地域では、どんな工業が盛んであるか調べる 工業が盛んな理由を土地や交通の面から考える 工場の規模による工業生産の違いについて調べる 大工場と中小工場の生産の様子から、日本の工業の特色をまとめる 中小工場が抱えている問題点やそれを解決するために働く人々が、どんな工夫をしているか調べる 身の回りにある、昔や今の工業製品を見て、どのように変わっているか話し合う。 工業製品の変化によって、人々の生活がどのように変化したのか調べる 	<ul style="list-style-type: none"> 2 資料を基に自分の考えをまとめる方法についての学び方を学ぶナビカード 学習問題を追究する場面で、ナビカード - 1及び - 2を活用して、予想の立て方や資料収集の方法、資料の比較 検討の方法を単位時間の導入時に指導する 自分の考えをまとめる場面では、ナビカード - 3を活用して、自分の考えを発表原稿にまとめさせる。さらに、裏面を使って、友達の考えを参考にしながらまとめさせる
まとめる	これからの工業生産をどのように進めていけばよいかについて、具体的な資料を使って話し合うことができるようにする	1	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習したことの中から、関心のあるテーマについて資料を集め、これからの工業生産の進め方について、自分の考えをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 3 資料活用にかかわる学び方を振り返るナビカード 前単元で活用したナビカードも参考にしながら、記入させるようにする

(2) 単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れた授業実践の概要

ア 授業実践の計画

- (ア) 対象 北上市立鬼柳小学校 第5学年 1学級（男子22名、女子16名、計38名）
- (イ) 授業実践期間 平成17年8月30日～9月22日
- (ウ) 指導計画 小単元1「世界とつながる自動車」・・・6時間
小単元2「工業の今と未来」・・・5時間

イ 授業実践の概要

ナビカードの活用を取り入れた授業実践の概要を10頁【資料3】、11頁【資料4】に示す。

【資料3】ナビカードを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要 1 「世界とつながる自動車」

学習問題

資料活用にかかわる学び方の視点

教師の支援

授業の様子

第1時 日本の自動車の輸出の様子を調べるとともに、地図や地球儀の使い方を覚えよう

第2時 日本の自動車の海外生産のグラフから学習問題を見つけよう

資料を読み取る視点

- 1 タイトル
- 2 出典・年度
- 3 多い国
- 4 他との比較

ナビカードⅠ 平成17年(9)月(1)日(木)

資料を読み取る視点

1 タイトル
2 出典・年度
3 多い国
4 他との比較

マークは資料を読み取っていくときの方法やむずかしい言葉の意味が書かれています。分からなくなったら、マークをたよりにできるだけで自力で学習を進めていきましょう。

日本自動車工業会
2002年
万台
アメリカ合衆国
オーストラリア約5倍多

資料(グラフ)を読み取る視点

- 1 縦軸・横軸の単位
- 2 全体的な傾向
- 3 変化の大きい部分

ナビカードⅠ-2 平成17年(9)月(1)日(木)

資料(グラフ)を読み取る視点

- 1 縦軸・横軸の単位
- 2 全体的な傾向
- 3 変化の大きい部分

国内生産は1990年からは大きく減っている。輸出は1992年から大きく減っている。海外生産は増えている。

つかむ段階

第1時では、分布図の読み取る際にナビカードを活用して日本の自動車の輸出の様子をとらえた。一番多く輸出している国や他の国と比べてどれくらい多いのかという読み取りの視点を与えたことで、正確な数値や他との比較という資料を読み取る際の大切な内容を多くの児童に理解させることができた。

第2時では統計資料の読み取り方について、ナビカード-2を活用して、グラフの種類と特徴をおさえた。ここでは、グラフの変化について、全体的な傾向や大きく変化している部分に着目させたことで、日本の自動車の生産の様子をおさえることができた。また、グラフの読み取りを基に、学習問題作りの場面では、海外の輸出が大きく増えた部分を取り上げて、その理由を明らかにしたいという発言が多く出された。

第3時 日本の自動車の海外生産が増えた理由について、自分の考えをもとう

予想を立てる視点

- 1 資料から発見した事実
- 2 既習事項や経験との比較
- 3 予想したことの理由付け

ナビカードⅡ-1 平成17年()月()日

資料を集めよう

資料を集める方法

資料を集める方法(例:インターネット)

自分の考え

資料を比べて、似ているところや違うところを見つけてみよう。

国内生産と輸出は、ついでに、海外生産は増えている。

前に自動車は台数が減っていたけど、海外で生産が増えたから、運ぶためのお金がかからないから海外で生産するようになった。

自分の考えの記述

資料から分かったこと、それから考えたことをつけて書きましょう。

追究する段階

前に学習したことで予想に役立つ資料があるよ。1学期のわが国の食料生産で見た食料の輸入のグラフを見ていこう。さて、円グラフの見方を覚えているかな。

第3時から第5時の追究段階では、ナビカード-1と-2を活用して、予想の立て方や複数の資料の比べ方についての指導を行った。第3時の予想を立てるときには、今まで学習したことや資料から読み取った事実を基にすることを理解させることができた。しかし、ナビカードに記述する量が多く、かなりの時間がかかってしまい、本時のねらいである自分の考えをもたせるための時間を十分に確保することができなかった。

自分の考えをもつ場面では、ナビカード-2で示した自分の考えをもつための視点を参考にしながら記述している児童が多く見られたが、明確に自分の考えを記述できた児童は29名であった。自分の考えをもたせるための視点としては十分とは言えないものであった。

第6時 日本の貿易の特徴や問題点をまとめよう

ナビカード-3を活用して、これからの日本の貿易の進め方について、自分の考えをまとめる活動を行ったが、自分の考えを書くのに時間がかかってしまい、グループでの話し合いの時間を十分に取ることができなかった。ナビカードを活用して資料活用にかかわる学び方の振り返りを行った。児童の多くは、資料から事実を読み取る方法が分かってきたという感想であったが、中には、複数のグラフの比較・検討の仕方について正しく記述できた児童も見られた。

資料の読み取り方や資料を基に自分の考えをまとめる方法についての振り返りチェック項目

ナビカードⅢ

資料の読み取り方や資料を基に自分の考えをまとめる方法についての振り返りチェック項目

まとめる段階

【資料4】ナビカードを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要2「工業の今と未来」

つかむ段階

第1時 日本の工業生産額の変化からこれからの日本の工業について学習問題を見つけよう

円グラフの読み取りの際には、ナビカード - 2を活用して、機械工業の生産額が60年前よりも約3倍に増えていることを読み取った児童がいた。日本の工業についての学習問題を作る場面では、前単元のナビカード - 2(裏面)に示している問題発見の方法を活用しながら、学習問題を考えている姿が見られた。ナビカードを活用しないで、円グラフの読み取りや学習問題作りを行った児童もいた。

みんながもってきた広告のチラシを使って、工業製品を六つの種類に分けてみよう



第3時 日本の工業の特色について自分の考えをまとめよう



発表時間は質問も含めて2分です。自分の考えと違う発表があったらたくさん質問してみよう

自分の考えをもつ視点

- 1 資料から考えられることを整理する
- 2 整理したことを文章にする
- 3 発表原稿

まとめるときのキーワードはこの3つです。これを使ってまとめよう

- 1 便利さ
- 2 環境
- 3 人々の願い

2. 自分の考えをまとめよう

- ★自分の考えのまとめ方
- ①自分の考えと友だちの考えがどう違うか気づかせる
 - ②メモしたこと自分の考えを結びつけて、自分の考えを整理して書く

友だちの考え

名前	発表	発表
大工場はロボットが大部分を動かしてつくってたくさん作られている。	中工場でロボットが大部分を動かしてつくっている。	中工場でロボットが大部分を動かしてつくっている。

自分の考えをまとめる視点

- 1 他者との考えの相違点をメモ
- 2 メモと自分の考えとの比較
- 3 自分の考えの再検討

自分の考え

中工場はたいへん大変だと思ったけど、中工場にしかできないことを考えてやっている人たちもいることを海くんから教えてもらい、高い品質のものを生産している中工場でもがんばれると思った。

ナビカードの3を使って、自分の考えをまとめてみよう

第4時 未来の工業製品を考えるとともに、これからの工業生産についてまとめよう

「今までの工業生産は、自分たちの生活が便利にならなうた。でも、きかぬものをかみくしやったり、これかかすやうな作業を人々の代わりにやっていた。今後は、ロボットが大部分を動かしてつくって、人々の生活を便利にするようにしよう。」

第3時では、日本の工業の特色について自分の考えをまとめる学習を行った。授業では、発表原稿を作成する活動を取り入れ、その後、グループで自分の考えを交流する場面を設定して互いの考えを学び合い、自分の考えをまとめことに生かしていった。児童は、友だちの考えに対して、なぜそう考えるのか理由を聞いたり、自分では考えられなかったことを教えてもらった。また、自分の考えを確かなものにするための発表原稿作りや互いの考えを学ぶ活動をとおして、自分の考えを深めることができた。

第4時は、単元をとおして考えていたわが国の工業生産について、自分の考えをまとめさせる学習を行った。この時間では、ナビカードは使わずにキーワードを板書し、児童はその言葉を手がかりにして、ノートに記述した。前単元で活用したナビカード - 3で学んだ自分の考えのまとめ方を生かして記述できた児童が26名であった。

追究する段階

第5時 工業生産の学習をとおして、社会科の学習の進め方について振り返ろう

ナビカードⅢ 平成17年(9)月(9)日

【 】の学習の振り返りをしましょう

○自分に当てはまるものを選んで、A～Dのどれか○を付けましょう。また、○を付けたら線でおすばししょう。

A(できるよくなった) B(どちらかというよくなるようになった)

C(どちらかというよくなるようになっていない) D(できるようになっていない)

チェック項目	A	B	C	D
1 次の順序で、資料を読み取ることができるようになりましたか。(1)タイトル→2)図表・年表→3)本文(図説・図解)	○	○	○	○
2 グラフを読み取るときに、正確な変化を読み取ることができるようになりましたか。	○	○	○	○
3 グラフを読み取るときに、大きく変化しているところを読み取ることができるようになりましたか。	○	○	○	○
4 自分の予想を解決するために、必要な資料をさがすことができるようになりましたか。	○	○	○	○
5 3つの資料を比べて、どいている点や差がある点を見つけることができるようになりましたか。	○	○	○	○
6 調べたことからは、課題についての自分の考えをもつことができるようになりましたか。	○	○	○	○
7 友だちの考えを取り入れて、自分の考えをまとめることができるようになりましたか。	○	○	○	○

チェック表を基に、自分ができるようになったや課題として残ったことを書いておこう。

★学習を終えての感想(わかったこと、自分の課題、ナビカード)

自分の考えをもつ視点には考えのよくなるしなうをはっきりさせることが大事だとわかった。

順番どおりに資料を読み取るのは、とてもむずかしいと思っていたけれど、社会のべんぎょうをしてくうに順番どおりに読み取るのがかんたんかんたんになりました。

まとめる段階

第6時は、ナビカードを活用して、単元を通じて学んできた資料活用にかかわる学び方の振り返りを行った。児童の80%以上が資料の読み取り方や資料の比べ方等、7項目中4項目について、前単元よりもできるようになったと振り返っていた。ナビカードによる学び方の振り返りをとおして、児童に次の単元での資料活用の力を高めるための目標をもたせることができた。

(3) 実践結果の分析と考察

授業実践をとおして手だての試案の妥当性を見るために、資料活用の力の三つの構成要素の中の「事実を読み取る力」、「資料を基に考える力」の二つについて、授業実践の前後に同一問題でテストを実施し、その結果をt検定によって比較し、育成状況をとらえた。

また、「学び方を振り返る力」を含めた三つの構成要素について、8頁【表6】の観点に基づいて、ナビカードやノートの記述内容を分析し考察を行った。

以下は、資料活用の力の三つの構成要素それぞれの育成状況である。

ア 「事実を読み取る力」の育成状況

【表7】は、「事実を読み取る力」の育成状況についてテストを行い、t検定で分析した結果を示したものである。分析した結果から、有意差が認められた。

事前テストでは、折れ線グラフを読み取ることに23名の児童が正解していたが、事後テストでは34名に増えた。また、グラフから事実を読み取るポイントについて正解できた人数は、事前では18名であったのに対して、事後では31名に増えた。

また、ナビカードやノートの記述内容から、資料から事実を読み取ることができるかについて、資料を読み取る場面で判断してまとめたものが【表8】である。

一つの資料から、正確な数値を基に一番多い国を見つけた児童()や、他の国の何倍になっているのかを発見することができた児童()が30名であった。また、折れ線グラフで変化の全体的な傾向を読み取ったり、変化の大きい部分を指摘したりすることができた児童()が31名であった。

さらに、資料を比べて相違点を指摘できた児童()が30名、複数のグラフの変化を数値を基に的確にとらえた児童()が21名、変化の様子をとらえた児童()が28名であった。

【表7】「事実を読み取る力」の育成状況

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
事実を読み取る力	5.74	0.95	7.11	0.73	0.24	7.92	*

「注」1 設問は8問で、1問につき1点、8点満点とした
 2 *印は、t検定において、有意水準5%で有意差があることを示している
 3 事前テストは8月22日、事後テストは9月22日に実施した
 4 Nは総数を表す
 5 t検定に用いた公式は、次のとおりである

$$t = \frac{X_2 - X_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2 - 2rS_1S_2}{n - 1}}}$$

$$X_1 \text{ と } X_2 \text{ は、事前と事後テストの平均点、} S_1 \text{ と } S_2 \text{ は、事前と事後テストの標準偏差、} r \text{ は相関係数、} n \text{ は人数を表す}$$

【表8】「事実を読み取る力」にかかわるナビカードやノートの記述内容(例)

事実を読み取ることができたと判断した児童	事実を読み取ることができないと判断した児童
日本の自動車の輸出で一番多いのはアメリカ合衆国で 184万台 である。	①アメリカ合衆国の車が 一番多い 。
日本の自動車が一番海外へ輸出しているのはアメリカ合衆国で、 2番目に多いオーストラリアの約5倍多い 。	②自動車の国内生産は、 多くなっている 。
自動車の国内生産は 1975～1980年までの5年間に大きく増えている 。	③国内生産は 1990年までは増えている 。
工業製品の 輸入や輸出を見ると、機械類が他と比べて多くなっている 。	④工業製品の輸入は、 石炭や木材が無くなった 。
機械工業の生産額は、 60年前よりも約4倍も増えている 。	⑤日本の工業は 金属工業が増えたり減ったり している。
日本の工業は、中京工業地帯の生産額が 一番多く、その中でも機械類の生産額が他の工業地帯よりも多くなっている 。	⑥化学工業の割合が 一番多いのは、瀬戸内工業地域 だ。
30名(78.9%)	8名(21.1%)

一方、資料から事実を読み取ることができないと判断した児童は、①から⑥のように、具体的な数値をとらえた読み取りができなかった児童(①)が8名、変化の大きい部分を正しくとらえられなかった児童(②)が4名、読み取ったことを具体的に記述できなかった児童(③)が3名であった。また、正しく資料を読み取れない記述があったり、複数の資料を比べて事実を読み取ることができなかつたりしていた(④から⑥)。

しかし、資料から事実を読み取ることができないと判断した児童も、資料のタイトルや単位など資料の読み取りの基本的な事項については、正しく記述することができていた。したがって、ナビカードで示した資料の読み取りの視点をより明確にすることにより、事実を読み取る力を十分に育成することができると思う。

以上をまとめると、資料から表されている事実を読み取ることができるか判断するための四つの観点のうち、「資料を見て、具体的な数値をとらえている」ことを含めて三つ以上できていた児童が30名で、資料から事実を読み取ることができないと判断した児童は8名であった。

約8割の児童が資料から表されている事実を読み取ることができた要因としては、小単元1のつかむ段階において、ナビカードで示した資料を読み取る視点が多くの児童に理解され、さまざまな資料に対して的確に事実を読み取ることができるようになってきたからと考える。また、小単元1の第1時、第2時で活用したナビカードとナビカード-2でとらえた基本的な資料の読み取り方が、小単元1の第3時以降の複数の資料を比べる場面でも「工業製品の輸入や輸出を見ると、機械類が他と比べて多くなっている」という新たな事実を発見することに結びついたと考える。さらに、小単元2の第1時で行った複数の資料から日本の工業生産額の変化を読み取る場面では、正確な数値をとらえながら「機械工業の生産額は、60年前よりも約4倍も増えている」という記述に結びついたと考える。

以上のことから、事実を読み取る力は、概ね育成されたと考える。

イ 「資料を基に考える力」の育成状況

【表9】は、「資料を基に考える力」の育成状況について、グラフの変化を基に考えをまとめる問題、調べた内容がどの資料によるものかを答える問題のテストを行い、t検定で分析した結果を示したものである。分析した結果から、有意差が認められた。

【表9】「資料を基に考える力」の育成状況

検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
資料を基に考える力	2.11	0.89	3.08	0.88	0.37	5.92	*

N = 38

「注」1 設問は4問で、1問につき1点、4点満点とした
2～5は【表9】と同じ

グラフの変化を基に考えをまとめる問題で正解した児童は、事前テストでは13名であったが、事後テストでは24名に増えた。また、調べた内容がどの資料によるものかを答える問題で正解した児童は、事前の22名から32名に増えた。

ナビカードやノートの記述から、読み取った事実を基に問題に対する自分の考えをまとめることができるかについて、自分の考えをまとめる場面で判断してまとめたものが次頁【表10】である。資料から読み取った事実から自分の考えを記述できた児童()が29名で、資料を調べていくうちに新たな発見をし、さらに調べて分かったことを取り入れたまとめを行うことができた児童()が15名であった。また、グループでの考えの交流から、友達の考えを取り入れたまとめを考えた児童()は8名であった。さらに、既習事項や別の資料と結びつけながら考えをまとめることができた児童()が11名であった。

一方、資料を基に考えることができないと判断した児童は、①から⑤のように、資料から読み取ったことのみ記述になっていた児童が12名、自分の考えの根拠となる資料についての記述がなかった児童が9名であった。

しかし、読み取った事実を基に自分の考えをまとめることができないと判断した児童も、資料から読み取ったことを自分の言葉で記述することができていた。したがって、ナビカードを作成する場合には書く内容を焦点化し、一般的な視点を与えるのではなく、学習内容に沿ったより具体的な視点を提示することにより、資料を基に考える力を十分に育成することができると考える。

以上をまとめると、読み取った事実を基に問題に対する自分の考えをまとめることができるか判断するための四つの観点のうち、「資料から読み取った事実を基に自分の考えを記述している」ことを含めて二つ以上できていた児童は26名で、読み取った事実を基に自分の考えをまとめることができないと判断した児童は12名であった。

約7割の児童が読み取った事実を基に自分の考えをまとめることができた要因としては、小単元1の第3時、第4時に活用したナビカード - 1、 - 2で示した、資料収集の方法や複数の資料の比べ方、自分の考えのまとめ方を、小単元2の学習においても、児童が必要なときに繰り返し活用できたことが考えられる。さらに、自分の考えをまとめる視点として示した互いの考えを交流する活動を取り入れた学習を展開したことで、自分の考えを見直したり、修正したりすることで、より確かな自分の考えをまとめることができたと考えられる。

約7割の児童が、読み取った事実を基に自分の考えをまとめることができたことと判断できたことから、資料を基に考える力は概ね育成されたと考える。

ウ 「学び方を振り返る力」の育成状況

ナビカードやノートの記述内容から、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ、整理することができるかについて、資料を活用して問題解決をするための学び方を振り返る場面で判断してまとめたものが次頁【表11】である。

資料の読み取り方について記述できた児童()が33名、予想の立て方について記述できた児童()が30名、資料の比較・検討の方法について記述できた児童()が27名、自分の考えをもつ方法

【表10】 「資料を基に考える力」にかかわるナビカードやノートの記述内容(例)

資料を基に考えることができた と判断した児童	資料を基に考えることができない と判断した児童
工業製品の輸出や輸入のグラフと貿易相手先の資料から、輸出が輸入よりも多いが、そのほとんどがアメリカ合衆国ということが分かった。 日本はもっともっとアメリカ合衆国の物を輸入しないといけない。	①輸出も輸入も 増えている。
日本の工業は、太平洋ベルトを中心に発達してきたが 海に遠いところを調べてみると、交通が便利で平らで広い土地があるところに工場が立つようになった。	②日本の工業は、 太平洋側で多く行われている。 ③中京工業地帯が生産額が一番多く、 特に機械工業が多い ことが分かった。
中小工場にしかできないことを考えてやっている人たちもいることを <u>くんから教えてもらい</u> 、高い技術とアイデアがあれば、中小工場でもがんばれる。	④中小工場では、製品を作るに 時間がかかる。
農業機械や電化製品が便利で使いやすくなったことで 農作業や家事の時間が短くなり、人々の生活にゆとりができた。	⑤電化製品が 昔よりも便利で 使いやすくなった。
26名(68.4%)	12名(31.6%)

について記述できた児童()が29名、自分の考えをまとめる方法について記述できた児童()が26名であった。

一方、資料活用にかかわる学び方について、間違ったとらえ方をしていた児童(①)が5名、資料活用にかかわる学び方についての振り返りができなかった児童(②から④)が10名であった。

しかし、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ、整理することができないと判断した児童も、各単位時間で行った学習の振り返りでは、資料の読み取り方や複数の資料を比べる方法について正しくとらえた記述や発言が見られた。したがって、資料活用にかかわる学び方についての定着を図るための手だてを取る必要があった。また、児童個々の学習

状況を基に、資料活用にかかわる学び方について、意図的に指名したり全員で確認する場面を設定したりするなど、ナビカードを取り入れた授業の工夫が学び方を振り返る力の育成につながると考える。

以上をまとめると、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ、整理することができるか判断するための五つの観点のうち、「資料を読み取る時の手順を正しくとらえている」ことを含めて四つ以上できていた児童は28名で、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ、整理することができない児童は10名となる。

約7割の児童が、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ整理することができた要因としては、学習の振り返りとして、分かったことや自分の課題を書かせることをとおして、資料の読み取り方や考えをまとめる方法など、各単位時間において、資料活用にかかわる学び方を記述させたり、発表させたりしたことが考えられる。さらに、小単元1と小単元2の二つの単元をとおして、資料活用にかかわる学び方を繰り返し活用させたことで、資料活用にかかわる学び方を正しくとらえ整理することができたものと考えられる。

以上のことから、学び方を振り返る力は概ね育成されたと考える。

5 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア つかむ段階において、資料の読み取り方や問題発見の方法を学ぶための視点を示した「ナビカード」の活用を取り入れたことにより、さまざまな資料と出会ったときにどのような手順で読み取っていくのかを理解させることができた。このことから、事実を読み取る力を育成する

【表11】 「学び方を振り返る力」にかかわるナビカードやノートの記述内容(例)

資料活用にかかわる振り返りができたと判断した児童	資料活用にかかわる振り返りができないと判断した児童
グラフを読み取る時に大切なことは、 <u>グラフの変化がどうなっているか、大きく増えたり減ったりしているところはどこか</u> を見ること。	①資料を読み取る時には、 <u>タイトルや年度に気をつける</u> ことが大切だ。
予想を立てるときには、 <u>前に学習した資料を使うことも大事</u> だと分かった。	② <u>資料を見つける方法</u> が分かった。
グラフを比べるときには、 <u>似ている点や違う点</u> を見つけて、新しい事実を発見すること。	③ <u>Bを付けたところがAになる</u> ようにがんばる。
自分の考えをもつときには、 <u>考えのもとになる資料</u> をはっきりとさせることが大事だと分かった。	④ <u>自分の考えをあまりまとめられなかった</u> ので、次はできるようになりたい。
<u>自分の考えと友だちの考えを結びつけることで、新たな発見</u> をすることができた。友だちの考えを聞くことは、大切だと思った。	
28名(73.7%)	10名(26.3%)

ことができたと考える。

イ 追究する段階において、資料収集・選択の方法や資料の比較検討の方法、自分の考えをまとめる方法を学ぶための視点を示した「ナビカード」の活用を取り入れたことにより、児童が繰り返し使いながら学習を進め、自分の考えをもてるようになった。また、学習活動に考えを交流する場面を設定したことで、互いの考えを学ぶことができ、児童の間でよりよい考えのまとめ方を意識するようになってきた。これらのことから、資料を基に考える力を育成することができたと考える。

ウ まとめる段階において、資料活用にかかわる学び方を振り返るための「ナビカード」の活用を取り入れたことにより、児童個々にどのような学び方ができるようになったのか、課題として残った学び方は何かをチェック表をとおして振り返らせることができた。また、学習の振り返りを記述させることにより、より確かな振り返りをさせることができた。これらのことから、学び方を振り返る力を育成することができたと考える。

エ 二つの単元をとおして、繰り返しナビカードの活用を取り入れた学習を展開したことにより、小単元2での実践では、資料から表されている事実を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする時間が小単元1の実践よりも短くなり、全体でのまとめの時間を十分に取ることができた。また、ナビカードやノートへの記述内容にも深まりが見られるようになってきた。

(2) 課題

単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」を次のように改善すること

ア 資料を読み取るための視点をより明確に示すこと

イ 自分の考えをまとめるための視点を学習内容に沿って具体的に示すこと

ウ 継続的に資料活用にかかわる学び方を振り返るナビカードの活用が図られるように、チェック項目や記述させる内容の修正を行うこと

以上のことから、課題はあるものの、小学校社会科の学習指導において、資料活用の力を高めるために、単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れることは、有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究では、単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れることによって、小学校社会科の学習における資料活用の力を高める学習指導について明らかにし、社会科の学習指導の改善に役立てようとするものであった。研究の結果、仮説の妥当性を確かめることができた。なお、成果として次のことを得ることができた。

(1) 単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れて、資料活用の力を高める学習指導に関する基本構想の立案

先行研究や文献を基に、小学校社会科の学習において、単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れることによって、資料活用の力を高める学習指導の進め方を明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れるに当たって、資料を活用した学習の進め方に対する児童の実態を把握するために、実態調査を行った。調査から明らかにな

ったことから、手だての試案作成上の留意点をまとめることができた。

(3) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想に基づき、また、実態調査から明らかになった単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れる際の留意点を基にして、小学校社会科の学習において、資料活用の力を高めるための手だての試案を立てることができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

検証計画に基づいた実践結果の分析と考察により、単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れていくことが、児童の資料活用の力を高める上で有効であることが確かめられた。

(5) 小学校社会科における資料活用の力を高める学習指導に関する研究のまとめ

児童の資料活用の力を高める学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

今後は、他の単元や学年においても単元を通じて学び方を学ぶ「ナビカード」の活用を取り入れた学習指導の展開についても研究を進めていきたい。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

有田和正（1995）,『1～6年生に育てたい学習技能』, 明治図書

岩田一彦（1993）,『社会科の授業分析』, 東京書籍

北 俊夫（1999）,『社会科調べ学習のための学び方カード』, 明治図書

北 俊夫（2004）,『社会科の思考を鍛える新テスト』, 明治図書

次山信男（1995）,『調べ学習に役立つ社会科資料の読み方・作り方』, ポプラ社

森分孝治 片山宗二編（2000）,『社会科 重要用語300の基礎知識』, 明治図書

【 補充資料 】

《 目 次 》

- 【 補充資料 1 】 ナビカードの実際 …… (資 1 ~ 6)
- 【 補充資料 2 】 授業展開案 …… (資 7 ~ 12)
- 【 補充資料 3 】 事前事後テス ト …… (資 13 ~ 14)
- 【 補充資料 4 】 実態調査紙 …… (資 15)

ナビカードⅡ-1 平成17年()月()日

名前

1 予想を立ててみましょう

☆予想を立て方

①資料から分かったことは何か

- ・〇年から、年々増えている
- ・この資料では、〇〇なのに、こっちのグラフを見ると、□□になっている

②今までの学習や経験と関係がないか

- ・前、興業の学習では、〇〇になっていた
- ・〇〇について、テレビで□□になっていた
- ・と習っていた

③予想を立てる

- ・海外生産が増えた理由は、〇〇だと思ふ

この資料が□□になっているから

予想した理由を付け加える
(～の資料では、〇〇になっているから)
(前の学習で、〇〇だったから)

国内生産と輸出は
 へっているから、海外生産はふえている。

前に自走カ車は殆どはこぼれることを免強した。
 外国で作られるのはよくなる。

新しい種類の車を作る事ができる。
 原料を使う事が安くなる。

2 学習計画を立てよう

☆学習計画の立て方

①予想したことを確かめるためにどんなことを調べるのか

②どんな方法で調べるか

- ・教科書、資料集、図書館にある資料
- ・インターネット、インクビュー、フアックス

③調べて分かったことをどのようにまとめるか

- ・模造紙に図や文章で
- ・調で
- ・紙しぼいで
- ・TPシートに図や文章で

(1) どんなことを調べるのか

外国で作るよさについて

(2) どんな方法で調べるか

資料集、図書館の本

(3) あなたのまとめ方

TPシートにまとめる

ナビカードⅡー2

平成17年()月()日

名前

1 資料を集めよう

☆資料の集め方

- ① 調べ方方法をもとに、予想を確かめるための資料は何が必要か考える
- ② 資料の集め方 (例: インターネット、電話や手紙)
- インターネット→1 キーワード (工業、生産、貿易) を考える
- 2 自分の課題に合ったページであるか
- 3 必要な資料だけ 2～3枚印刷
- 4 資料から読み取ったことをノートに書く

2 集めた資料からどんなことが分かりますか

☆資料の比べ方

- ① グラフの変化や分布図、写真の様子で似ている点やちがう点を見つける
- ② ①で見つけたことを結びつけながら、どんなことがいえるのかを考える

3 学習課題についての自分の考えをもちよう

☆自分の考えのもち方

- ① 資料から読み取ったことをもとにして、自分の考えをまとめる
- ・○○の資料から～ということがわかり、私は□□と考えた
- ・○○の資料から～だと考えたが、別の資料で～ということがわかり、
- 2つの資料から□□だと考えた

ナビカードⅢ

平成17年()月()日

名前

【 1 の学習のふり返りをしましょう

○ 自分ではまるものを選んで、A～Dのどれかに○を付けましょう。また、○を付けたら編でむすびましょう。

- A (できるようになった) B (どちらかというとできるようになった)
- C (どちらかというとできるようになっていない) D (できるようになっていない)

学習項目	A	B	C	D
1 次の順番で、資料を読み取ることができるようになりましたか。(1タイプから2冊→3冊→4冊【縦横・横横】)	○	B	C	D
2 グラフを読み取るときに、全体的な変化を読み取ることができるようになりましたか。	○	B	C	D
3 グラフを読み取るときに、大きく変化しているところを読み取ることができるようになりましたか。	○	B	C	D
4 自分の予想を解決するために、必要な資料をさがすことができるようになりましたか。	A	○	C	D
5 2つの資料を比べて、にている点やちがっている点を見つけておくことができるようになりましたか。	○	B	C	D
6 調べたことがあったことから、課題についての自分の考えをもつことができるようになりましたか。	A	○	C	D
7 友だちの考えも取り入れて、自分の考えをまとめることができるようになりましたか。	A	○	C	D

☆学習を終えての感想 (わかったこと、自分の課題、ナビカード)

グラフを見るときはグラフから見て、分かったことやわかっていないことを見つけておく。次は教科書などを見ても調べることをしてみたいです。

【補充資料2】授業展開案
小单元1「世界とつながる自動車」全6時間

【世界につながる自動車】展開案(1/6)
ねらい...世界地図や地球儀を使って、日本からさまざまな国の距離・方位を調べることができるようになる。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 日本の自動車の輸出はどのように行われているか調べる。 2 学習課題をたてる。 地図や地球儀を使って、世界の国々位置や、日本からの距離・方位を調べてみよう。	・教科書や資料集の統計や写真、文書資料をもとに、自動車の運び方やどこへ運んでいるかについて調べ、学習課題の設定に結び付ける。	・日本の自動車の主な輸出先にかかわる資料
追	3 自動車が輸出されている国々の方位や距離を地図や地球儀を使って調べる。	・アメリカ合衆国のシアトルを例にして方位や距離の調べ方を確認する。(グループ活動)	・地球儀 ・世界地図 ・ナビカード
究	4 地図と地球儀の特徴をまとめる。	・球面を平面に表した地図には、歪みが生じることをとらえさせる。 ・地図と地球儀を比較できるように、表にまとめるようにする。	
ま	5 学習の振り返りをする。	・地球儀と地図の特徴について、児童の言葉でまとめさせる。	・ナビカード
と	6 次時の学習内容を知る。	・日本の自動車の輸出の様子について調べていくことを知らせる。	

【世界につながる自動車】展開案(2/6)
ねらい...日本の自動車の輸出がどのように行われているか調べ、日本の貿易の特色を明らかにするための学習計画を立てることができるようになる。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 日本の自動車の輸出はどのように行われているか調べる。 2 日本の自動車などの国で生産されているか調べる。 3 1と2の資料から、読み取ったことを基に、学級全体の学習テーマと学習課題を立てる。	・自動車の輸出と海外での自動車の生産の移り変わりをグラフに表す活動を取り入れる。 ・海外での生産台数が増加していることに気付かせる。 ・日本の自動車がこの国で生産されているかをとらえさせる。 ・アメリカ合衆国やカナダの生産台数が多いことに気付かせる。 ・海外生産が増えた理由や他の工業製品など、児童から出された疑問をもとに、日本の貿易の特色を明らかにする学習テーマと学習課題を立てる。 ・問題発見の方法について、ナビカードをもとに理解させる。	・日本の自動車生産にかかわる統計資料 ・ナビカード ・日本の自動車生産台数と輸出台数の変化を表したグラフ ・海外で生産している台数を表した資料
追	4 学習テーマを立てる。	(テーマ) 日本の貿易のひみつをさぐる (課題) ・なぜ、海外での生産が多くなっているのか。 ・他の工業製品の輸出や輸入は、どうなっているのか。 ・日本の貿易の特徴や問題点は何か。	
ま	5 学習計画を立てる。	・ナビカードを活用しながら、課題解決までの見通しをもたせるようにする。	・ナビカード
と	6 学習の振り返りをする。	・日本の自動車の輸出の変化をもとに、学習課題の立て方についてまとめる。	・ナビカード
め	7 次時の学習内容を知る。	・学習課題を解決していくことを知らせる。	・ナビカード

【世界につながる自動車】展開案（3 / 6）

ねらい...日本の自動車の海外での生産の様子を調べ、海外生産が増えた理由を輸出を抑えることや生産している国の産業を発展させていることなど、日本と外国との結び付きをよいものにする目的で海外での生産が増えていることを考えることができるようにする。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 学習課題を確認する。 なぜ、日本の自動車の海外生産が増えているのだろう		・日本の自動車生産にかかわる統計資料
追究する	2 日本の自動車が海外で生産されるのが多くなくなった理由について、予想を立てる。	・前時に使った資料をもとに、予想を立てるようにさせる。	・ナビカード
	3 日本の自動車が海外で生産されるのが多くなくなった理由を調べる。	・海外生産が増えた理由を輸出を抑えることや生産している国の産業を発展させていることなど、日本と外国との結び付きをよいものにする目的で海外での生産が増えていることをとらえさせる。	・日本の自動車生産台数と輸出台数の変化を表したグラフ ・海外で生産している台数を表した資料
	4 海外生産が増えた理由について自分の考えをもつ。	・資料を基に自分の考えをもつ方法を示したナビカードを参考にし、自力で自分の考えをまとめられるようにする。	
	5 自分の考えを発表し合い、自分の考えを深める。	・自分の考えと友達の考えを比べながら、自分の考えをまとめめる。 -----ナビカードの活用 (1)自分の考えを書く (2)グループで発表し合う (3)全体での話し合い (2)や(3)で参考となる考えを書き込む	
	6 学習の振り返りをする。		・ナビカード
まとめ	7 次時の学習内容を知る		・海外生産が増えた理由について学級全体でまとめめる。 ・複数の資料の比べ方について、児童個々に振り返る。 ・海外生産で特に、北米（アメリカ合衆国やカナダ）が多い理由を調べていくことを知らせる。

【世界につながる自動車】展開案（4 / 6）

ねらい...日本では、どのような物が輸出入されているから調べることができることも、輸出入品の特色について自分の考えをもつことができるようにする。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 学習課題を確認する。 他の工業製品の輸出入は、どうなっているのだろう		
追究する	2 他の工業製品の輸出入について、予想を立てる。	・自動車の輸出や食料の輸入のようすを振り返りながら、予想を立てるようにさせる。	・ナビカード
	3 他の工業製品の輸出入について調べる。	・日本の輸出入品の移り変わりを示したグラフをもとに、輸出入品についての变化を読み取るようにする ・グラフの読み取りが困難な児童に対しては、ナビカードを活用しながら、読み取るときポイントを振り返らせるようにする。	・輸出入相手先とその品目や額を示したグラフ及び表
	4 他の工業製品の輸出入のようすについて自分の考えをもつ。	・機械類の輸入が多くなっている20年前も今も機械類や自動車の輸出が多い。	・ナビカード
	5 自分の考えを発表し合い、自分の考えを深める。	・全体の輸出入額が増えている。 ・前時の学習での自分の考えのちやナビカードを参考にしながら、自分の考えをまとめめる。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら、自分の考えをまとめめる。 燃料や原料を輸入して、工業製品を輸出している アメリカ合衆国が貿易の一番の相手だが、アジアの国々も貿易が盛んになってきている	
	6 学習の振り返りをする。		・ナビカード
まとめ	7 次時の学習内容を知る		・日本の輸出入品についてまとめめる。 ・自分の考えのちや方について、児童個々に振り返る。 ・日本の貿易の特色や問題点について調べていくことを知らせる。

【世界につながる自動車】展開案（5・6 / 6）
 ねらい...日本の貿易の特色や問題点をまとめ、これからの貿易の進め方について自分の考えをもつことができるようにする。自分の考えをまとめる方法を身につけることができるようにする。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">日本の貿易の特色や問題点を見つけよう</div>		・ナビカード
追究する	2 輸出入品は、どのように運ばれているか前時までの学習をもとに予想を立てながら調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・食料生産の学習を振り返り、自動車の輸出の様子を基にしたりしながら、予想を立てるようにさせる。 ・輸出入品の流通について、船や飛行機で運ばれる品物の資料を提示して品物を運ぶ運輸の働きを中心にとらえさせる ・加工貿易や逆輸入という用語を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・船や飛行機で品物が運ばれている様子を表した写真
	3 貿易額の変化の資料をもとに日本の貿易の特色や問題点を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業単元や自動車の輸出について学習したことを振り返りながら、貿易の不均衡や食料の輸入依存等问题点をおさえ、これからの貿易という学習に結び付けるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の貿易額の変化のグラフ ・日本の主な輸出入品の変化を表したグラフ
	4 これからの貿易の進め方について自分の考えをもち、グループごとに話し合う。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ナビカードの活用 (1)自分の考えを書く (2)グループで発表し合う (3)参考となる考えを書き込む (4)自分の考えを修正する </div>	・ナビカード
	5 話し合いをもとに、自分の考えを修正し、考えをまとめる。		
まとめる	5 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の貿易の特色や問題点について学級全体でまとめる。 	
	6 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの工業製品を調べ、日本の工業の種類や特色について考えていくことを知らせる。 	

小単元2「工業の今と未来」全5時間

【工業の今と未来】展開案（1 / 5）

ねらい...身の回りにある工業製品はどんな物があるか調べ、日本の工業の種類や特色、これからの日本の工業の在り方について、学習テーマや学習課題を立てることができるようにする。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 広告のチラシを使って、工業製品の種類ごとに分ける。 2 日本の工業の特色について調べる。	・工業の種類は、重化学工業と軽工業に分かれることや大きく6つの種類に分けられることをとらえさせる。 ・まとめた表や資料を基にどんな工業が盛んに行われているか調べる。	・広告のチラシ ・日本の工業生産額の変化を表したグラフ
追究する	3 1と2の活動から考えたことをもとに、学級全体の学習テーマと学習課題を立てる。 4 学習計画を立てる。	・工業製品はどこで作っているのか、これからどんな工業が発達していくのかなど、児童から出された疑問をもとに、日本の工業の特色やこれからの日本の工業についての学習テーマと学習課題を立てる。 ナビカード 学習課題の立て方について、想起させる。 (テーマ) ・日本の工業のひみつをさぐる (学習課題) ・工場がたくさんある場所は、どこか。 ・日本の工業の特色は何か。 ・工業製品の変化と人々のくらしの変化について。	
まとめ	5 学習の振り返りをする。 6 次時の学習内容を知る	・計画が立てられない児童には、前単元で活用したナビカードを参考にしながら、課題解決までの見通しをもたせるようにする。 ・日本の自動車の輸出の変化をもとに、学習課題の立て方についてまとめ。 ・学習課題を解決していくことを知らせる。	

【工業の今と未来】展開案（2 / 5）

ねらい...日本の工業の盛んな地域をつかむとともに、盛んな地域と土地や交通の条件が関係していることのできるようにする。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 学習課題を確認する。 工場がたくさんある場所って、どんな所だろう。		
追究する	2 今までの学習をもとに、工場がどこにあるかを予想する。 3 資料をもとに、工場がどんな場所によくあるのかを調べる。 4 なぜその地域が、工業が盛んなのか、理由を考える。	・自動車は、船で輸送されていることから、海沿いではないか、働く人口が多いところに工場がたくさんあるだろうなど、今までの学習や見聞きした経験したことをもとに、予想を立てさせる。 ナビカード 予想の立て方について、想起させる。 ・教科書や地図帳にある資料を関連させながら、「どこでどんな工業が多いか」を調べ、工業地域の特色をとらえるようにする。 ナビカード 資料の比べ方について、想起させる。 ・海沿いは原料や製品の輸送が便利であることや交通網の発達より内陸部や東北地方にもたくさんある工場があることなど、土地や交通の条件が関係していることを写真資料や分布図などを活用しながら考えさせる。	・日本地図 ・白地図 ・工業地域別の生産額を表したグラフ ・工場が広がる場所を示した写真
まとめ	5 学習の振り返りをする。 6 次時の学習内容を知る	・工業が盛んな地域について学級全体でまとめ。 ・日本の工業の特色について調べていくことを知らせる。	・大工場と中小工場の数の割合を表したグラフ

【工業の今と未来】展開案（3 / 5）

ねらい...大工場と中小工場での生産の違いを調べることから、日本の工業の特色をつかむことも、中小工場の抱えている問題点や解決のためのさまざまな努力についてとらえることができるようになるようにする。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 工場の規模による工業生産の違いについて調べる。 2 学習課題を確認する。	大工場と中小工場を比べながら、工場の規模別の特色をつかむようにさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">日本の工業の特色は、何だろう。</div>	工場の規模別にみた工場数・働く人数・生産額を表したグラフ
追	3 中小工場は工場数が多いが、生産額の割合が大工場より少ない理由を考える。	自動車工場の生産の様子や関連工場との結び付きの学習など、前時までの学習を想起させ、関連工場のほとんどが、中小工場であることと結びつけて考えさせる。 ・生産額が少ない理由の一つとして、中小工場の抱える問題点があることを、資料からとらえさせる。	工場の規模別にみた各工業の生産額 ・中小工場で見ている写真 ・1年間の一人当たりの生産額を表したグラフ
究	4 課題についての考えをグループで発表し合い、自分の考えを深める。	ナビカードを活用して、グループ発表で参考となる友だちの考えをメモしたり、考えを修正したりしながら、自分の考えを深めるようにさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">グループで発表する 考えを修正する 考えをまとめる</div>	
ま	5 学習の振り返りをする。	日本の工業の特色について、学級全体でまとめる。	日用品の変化を示した写真資料
と	6 次時の学習内容を知る。	工業生産の変化と私たちの暮らしとの結びつきについて学習することを知らせる。	

【工業の今と未来】展開案（4 / 5）

ねらい...工業の発達によって、さまざまな工業製品が使われるようになり、人々のくらしが大きく変わってきてきたことに気付くことができるようにする。

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
つかむ	1 身の回りの工業製品の移り変わりについて、気づいたことを発表する。 2 学習課題を確認する。	4年生での学習を想起させたり、昔の工業製品を提示したりしながら、身の回りにおける工業製品が変化していることに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">工業製品の移り変わりによって人々のくらしは、どのように変わってきたのだろうか</div>	昔の工業製品（日用品、ゲーム）
追	3 工業の発達によって、人々のくらしがどのように変わってきたのかを調べる。 4 考えを発表し合い、自分の考えを深める。	写真やグラフ資料を基に、作業時間の軽減、快適さ、利便性等、工業製品の発達によって、人々の生活が便利になってきたことをとらえる。 ・グループで話し合い、工業の発達と人々の生活の変化について、自分の考えをまとめることができるようにする。 ・工業の発達による問題点についても気付かせるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ナビカードの自分の考えをまとめる方法を振り返る。</div>	パソコンやテレビゲームをしている児童の写真 ・携帯電話やパソコンの普及と台数の変化を表したグラフ ・ナビカード
ま	5 学習の振り返りをする。	工業製品の移り変わりや人々のくらしの変化について、学級全体でまとめる。	工業の発達によるよさや問題点にかかわる写真資料（バリアフリー製品、捨てられた自動車、リサイクル製品など）
と	6 次時の学習内容を知る。	今までの学習を基に、これからの日本の工業生産は、どのように進めていったらよいかについて考えていくことを知らせる。	

【工業の今と未来】展開案（5 / 5）

ねらい...これからの工業生産をどのように進めていくことが大切かについて、具体的な資料を提示しながら話し合うとともに、課題に対する考えをまとめることができるようにする。

段階	学習活動と主な発問	指導上の留意点	主な資料
1	工業生産について、児童が抱いている疑問や問題点を発表し合う。	<p>児童が抱いている疑問や問題点のなかから、未来の工業生産にかかわる内容を学級全体の課題となるように方向付けるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童が抱いている疑問や問題点</p> <p>(1) これからの工業製品は、どんな物が人々に喜ばれるか。</p> <p>(2) 日本の貿易は、これからどうなるのか。</p> <p>(3) 海外生産は増え続けるのか。</p> <p>(4) なぜ、日本海側に工業地域が発達しないのか。</p> <p>(5) 機械工業がこれからも増えていくのか。</p> </div>	<p>P108写真 P76資料集 P94・95、 P97グラフ P92・93グラフ P100グラフ P68資料集 P98、100グラフ</p>
2	学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">人々に喜ばれる工業製品を考えよう。</div>	<p>・ 便利さや快適さなど、工業製品の発達とともに、人々の生活が豊かになってきた面と、それとは反対にゴミ問題など、いくつかの問題点も出てきていることに目を向けながら、これからの工業生産を考えていくようにする。</p>	
3	資料をもとに、課題について自分の考えをもつ。	<p>・ 教科書や準備した資料を使って、資料からわかったことをもとに、これからの工業生産についての自分の考えを書かせる。</p> <p>・ 便利さや快適さだけでなく、今抱えている問題点を考慮に入れて考えさせるようにする。</p> <p>・ 書けない児童については、前時まで</p>	<p>・ 教科書 p 90 ~ 109 のグラフ・写真等の資料 ・ 児童個々に準備した資料</p>

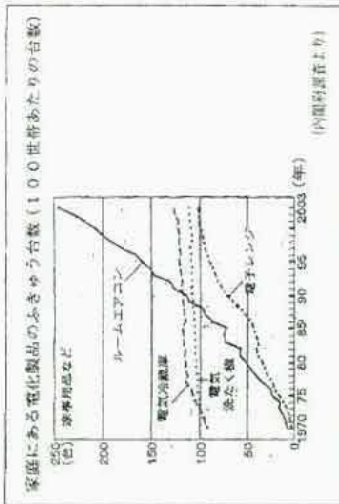
4	考えを発表し合い、自分の考えを深める。	<p>学習で問題点として考えていることを振り返らせたり、自分の考えの持ち方をナビカードで振り返らせたりする。</p> <p>・ 児童個々の考え（これからの工業生産のポイント）を資料をもとに発表させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>グループ発表をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表時間は質疑を含めて2分 友達の考えをメモする <p>考えを修正する</p> <p>考えをまとめる</p> </div>	<p>・ 発表で使用する資料</p>
6	学習の振り返りをする。	<p>・ これからの工業生産について、学級全体でまとめる。</p> <p>・ すべての人々の願いや地球環境を考えた製品作りが求められていることを単元のまとめとする。</p>	

【 補 充 資 料 3 】 事 前 事 後 テ ス ト

社会科学テスト

5年()組()番考部

1 たかしさんは、自由研究で「11家電品がどれくらい家にあるか」調べてみることにしました。そこで、たかしさんは下のような資料を集めました。さて、この資料をもとに、下の問いに答えなさい。



(1)上の資料を見て、()にあてはまる言葉や数字を書きなさい。
この資料は、(①) について表したもので、() を、横軸は (②)) を表しています。電子レンジの台数は、2000年には約 (③)) になっています。また、ふきゅう台数の増え方が一番大きい電化製品は (④)) です。

(2)たかしさんは、上の資料をもとに考えをまとめました。さて、()にあてはまる言葉や数字を ()には文庫を書き、たかしさんの考えを完成させなさい。

ア たかしさんの考え

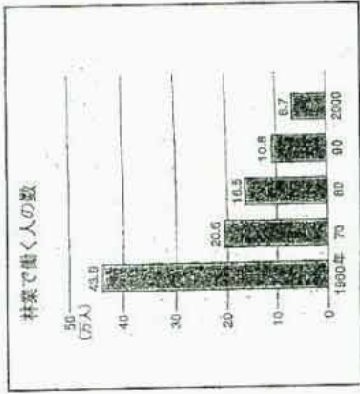
ア ルームエアコンのふきゅう台数は、2003年には100世帯あたり約250台になっているので、1世帯あたり約 ()台ということになる。

イ ルームエアコンのふきゅう台数は、今後も () ではないかと考えました。

ウ 電気冷蔵庫や電気洗濯機、電子レンジは、ルームエアコンのように大きくは増えないうだらうと考えた。その理由は、

です。

2 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。



(1)左のグラフを読み取るとき、どの順番でグラフを見ていきますか、読み取る順番に番号を()に書きなさい。

- ア() 資料は何を表しているか、タイトルを読む。
- イ() 全体的にどのようなように変化しているか、傾向をとらえる。
- ウ() たて軸と横軸は何を表しているかを確かめる。
- エ() 年度ごとに数字を読み取る。

(2)上の資料を読み取るときに一番大切なことは何ですか、次のア～エのなかから一つ選んで()に記号を書きなさい。

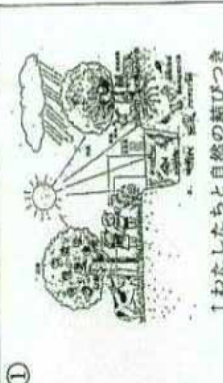
- ア 資料は何を表しているか、タイトルを読むこと
- イ 全体的にどのようなように変化しているか、傾向をとらえること
- ウ たて軸と横軸は何を表しているかを確かめること
- エ 年度ごとに数字を読み取ること


(3)上の資料をもとにして、学習課題をつくりたいと思います。あなたは、どんな学習課題をつくりますか、() にあなたが考えた学習課題を書きなさい。

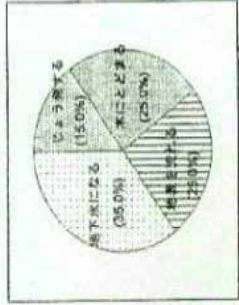
学習課題

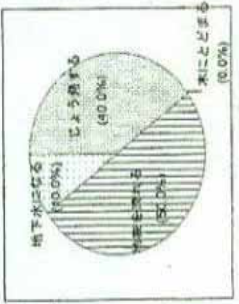
3 まなさんは、一人勉強で「自然と私たちのくらし」について調べ学習をしました。さて、まなさんが調べたことは、①～④のどの資料を調べて分かったことですか。正しいものを一つ選んで に番号を書きなさい。

まなさんが調べたこと
 森林は木村を生産するほかに、こう水や土砂くずれをふせいだり、水をたくわえたりするはたらきがある。

①  ↑わたしたちと自然の結びつき

②  ↑国土の利用 (2000年 国土交通省)

③  ↑森林のある山の雨水のゆくえ

 ↑森林のない山の雨水のゆくえ

④  ごみの分別をおこなう

 資源に恵がおよぶ

 ↑自然のしくみがくずれると

 公害がおきる

【 補 充 資 料 4 】 実 態 調 査 紙

実態調査紙

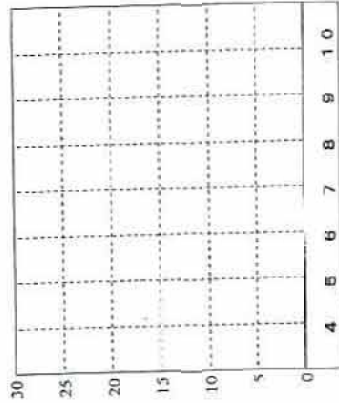
相	番 名 前
---	-------

下の問題は、成績にはまったく関係ありません。2学期、みなさんと楽しく
社会科の学習をするために役立てようとするものです。

○ 下の表をもとに、下の問題に答えましょう。

月	4	5	6	7	8	9	10
気温(度)	10	18	20	22	25	20	12

【表】北上市の気温の変化



(1) グラフのたて軸とよこ軸は、何を表していますか。 [] にあてはまる言葉を書いてください。

たて軸 [] よこ軸 []

(2) グラフのタイトルを [] に書いてください。

[]

(3) 表をもとに、折れ線グラフを完成させましょう。

(4) 気温のふえ方が一番大きいのは、何月から何月までの間でしょう。 [] の中に、あてはまる数字を書いてください。

[] 月から [] 月の間

このアンケートは、社会科の学習について、みなさんがふだんどのようなように思っているのかわかり、これからの学習に役立てるために行うものです。テストでは、ありませんので、ふだんの学習を思い出しながら、答えてください。

1 ふだんの学習で、友達のことを聞くときに、自分の考えと比べながら聞いていますか。
一番近いものを選んで [] の中に、記号を書いてください。

- ア している
- イ どちらかというとしている
- ウ どちらかというとしていない
- エ していない

[]

※ 「ウかエ」を選んだ人は、その理由を [] の中に書いてください。

[]

2 ふだんの学習で、学習のまとめを書くときに、自分の考えを書いていますか。
一番近いものを選んで [] の中に、記号を書いてください。

- ア している
- イ どちらかというとしている
- ウ どちらかというとしていない
- エ していない

[]

※ 「ウかエ」を選んだ人は、その理由を [] の中に書いてください。

[]

